

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200890		
法人名	株式会社グロリアコーポレーション		
事業所名	グループホームめぐみの丘Ⅱ		
所在地	千葉県千葉市花見川区三角町178-25		
自己評価作成日	平成26年2月12日	評価結果市町村受理日	平成26年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成26年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的雰囲気の中で入居者様一人一人が個々の尊重を保たれかつ一日一日を楽しく過ごせる様努めております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成16年6月に開設している。昨年の11月に管理者の異動があり課題が山積しているが、新体制も落ち着きを見せ始めている。常勤職員の退職によるマンパワー不足の傾向があるものの、新たな職員の採用も決定し、活気がある。開設以来働いている職員も数名いて、事業者が力を入れている「家庭的な雰囲気」を支える一翼を担っている。食事は、全て職員の手作りで、訪問時にも利用者の満足感がうかがえた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業者の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	未だ全てにおいて共有できているとはいえない状況	新管理者は、事業所の掲げている理念が「働く職員一人ひとりに意識付けされ共有されているとは、言い難い状況」であるとの認識を持っており今後の課題として取り組んでいこうと考えている。	職員全員が理念を理解し、日々の具体的なケアに意識的に反映されていくことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて、自治体、地域とより密につなげていく予定	運営推進会議では、自治会長から自治会主催のイベントや防災訓練を合同で行い、地域の連携強化につなげたらどうかという提案もある。今後は自治会との連携の強化を図りたいと考えている。	地域の人々と顔見知りの関係を作っていきたいと考えている。地域密着型の事業者として地域住民との積極的な交流に取り組むことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同上		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの意見交換をし、実践につなげていきたいが、なかなか現状は厳しい	家族・自治会長・行政・民生委員の出席の下で地域の現状や事業所の課題・方向性など様々な面から意見の交換が行なわれており、充実した意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話だけのやりとりではなく、実際に面談等により信頼関係を築いている。	利用者と一緒に市の窓口を訪問して日頃のサービス状況を伝えたり、相談にのってもらうなどの関係性ができている。また、運営推進会議には地域包括支援センターが参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じて学んだことを現場にフィードバック。スタッフ全員が理解した上での施錠を実施。	さまざまな事情により、家族の了解を得て、抑制しているケースがある。	全ての職員に対し身体拘束の内容とその弊害を認識できるようにすることが望まれる。また、本当に拘束が必要であるのか再度検討し、定期的に見直し、拘束をしないケアの実践につなげることを望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一人ひとりがゆとりあるケアをするよう、シフトにも気遣い、入浴時などでの身体観察をかかささない。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームめぐみの丘Ⅱ

自己評価(全体)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内での取り組みはないに等しい。スタッフ個々に学ぶ姿勢のあるもののみ認知していると考ええる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	省略することなく丁寧な契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部受付先は、入所時重要書類に記載。ご家族来訪時には積極的に話しする機会を設けている。	家族の希望や意向は、来訪時に聞くようにしている。重度化してきた親との接し方について、事業所の外観を明るくするための看板設置、居室でアロマの香りを利用してはどうかなど、さまざまな意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、連絡ノート等を通じて連携をはかっている。	月1回ケアカンファレンスが意見を聞く場になっている。職員から上がった議題は、徹底して話し合うようにしている。職員の意見については反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者が密に連絡をとり、現場にフィードバックしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の思いを定期的に聞き、学ぶ姿勢を尊重している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これからの課題としている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々の尊厳が保たれるよう、入所前からスタッフ間への情報提供につとめ万全の態勢で迎える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	報告、連絡、相談を欠かさず、早期対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の要望に対し、スタッフ間でカンファレンス後、家族と連携をはかる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にコミュニケーションをはかり、個々を知る努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を大切にして、傾聴の時間を多く設ける。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族を通じて、出来るだけ多くの支援者を知っておく。	利用者の入居前からの友人から魚を仕入れたり、手紙を書く支援を適宜行うなど、家族や友人との関係継続を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフの適切な声かけにより、皆が楽しめる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の連絡は欠かさず実施。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、十分な時間をとり聞き取り実施。こまめなモニタリングを行っている。	家族からは訪問時に、利用者からは時間をかけて意見を聞き取るようにしている。その内容は職員間で共有され介護計画に反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、キーパーソン全ての情報を駆使してプラン作成に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化も見逃さない様、スタッフ間との連携につとめている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	少しの気づきにも対応し、スタッフ、家族、本人とで検討している。	業務日誌や申しノートに記載される職員からの細かな気づきと利用者・家族の思いを介護計画に反映するようにしている。支援会議において細かくモニタリングを行い、現状に即した計画になるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン作成時には管理者だけでなく、スタッフにもプラン作成にかかわってもらっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様な意見を求め、スタッフがアイデアを出す機会をカンファ等で作っている。			

グループホームめぐみの丘Ⅱ

自己評価(全体)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて地域との連携強化をはかりつつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族と密にコンタクトをとり、最良の医療選択に努めている。	歯科医の訪問や月1回の協力病院医による往診、ホームの看護師により利用者の健康管理を行っている。看護師が服薬管理を行うなど利用者にとって安心した医療体制を築く取り組みがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの気づきにも対応できるよう必ず看護師、管理者両者に連絡をとるように指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医はもちろん、近隣総合病院との良い関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、契約時に十分な説明をし、ご家族にも納得していただいている。	重度化した場合の取り組みは本人、家族と話し合っている。看取りについては「介護の内容」の一つに「重度化した場合の看取り介護と急性期の介護」を挙げている。	事業所の終末期支援の取り組み方法が明確とは言えない。関係者全体で統一した支援を行うための支援マニュアルを作成して職員間で共有するなどの取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを常時、事務所に掲示。又、訓練も定期的実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の下での訓練実施。今後自治会防災訓練に積極的参加予定。	年2回避難訓練を実施した。火災の予防への取り組みとして自主検査チェック表を作り点検している。また、消防署指導のもと、夜間を想定した避難訓練も実施されている。	避難訓練の結果、消防署予防課の立ち入り検査結果の指敵項目について、早期に改善する事を望む。また、地域住民との協力体制の構築も望まれる。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行き届かないケアに対してはその都度指導している。	職員は利用者に対して優しく、丁寧に声をかけようように努めている。プライバシーを損ねるような対応についてはその都度注意をしている。	利用者の人格の尊重やプライバシーの確保について「接遇」等の研修を行うなど、全職員の意識向上が期待される。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	命令ではなく、きちんとしたお声かけの徹底により、個々の希望を導き出す努力をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ心がけてはいるが、まだまだスタッフ本位のケア状態			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気づくスタッフとそうでないスタッフ有り。細やかな気遣いができる様、指導中。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の意欲がわくようお声かけをし、やる気になって頂くよう努めている。	食事は職員の手作りで、ホームに漂う香りや音が利用者の食欲をそそることが伺える。材料の仕入れ先も厳選し、新鮮で低コストの品を選んでいいる。利用者にとって食事が楽しみになるように取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を欠かさず行い、目で見ると判るよう取り組んでいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック表を作り、きちんとできるか毎度スタッフが見守り実施。			

グループホームめぐみの丘Ⅱ

自己評価(全体)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方はチェック表を作成し、排泄パターンを知る努力をしている。	現在自立している利用者が多い。排泄のパターンを掴んでいることで、夜間のトイレ誘導も適切に支援されていることが伺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や食事献立に気を使い、スムーズな排便が出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を固定してはいるが、入浴時には一人ひとりとゆっくり会話をする様にし、個々を知る時間としている。	週2回の入浴ではあるが、一人ひとりに時間をかけて、職員と利用者がゆっくりと話をする時間として大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの眠りの状態を知るように努め、良眠できる様、夜間スタッフとの連携も欠かさず実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬のことがわかる用紙をはさみこみ、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの会話の中から導き出し、スタッフ間でつなげていけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	マンパワー不足でしばらく出来ずにいたが、今後は積極的に実施する予定。	現在は職員不足のため、外出支援は行われていない。しかし職員は利用者のためにさまざまなことを計画したいと考えている。	体制を整えて、家族や地域のかも借りながら、利用者の意向に沿った外出が支援されることが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームめぐみの丘Ⅱ

自己評価(全体)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に保管。入居者個々に金銭管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	積極的に支援。要望時、好きなときに電話、手紙OK。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様それぞれに伺い、又、出来る方には照明の調節など自らしていただく。掃除は基本的には一緒に実施。	共用空間はテレビやソファを置いて、利用者が思い思いに過ごしている。壁には利用者が作ったちぎり絵が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの部屋の行き来をOKにして、好きな時間を過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	よほどの事が無い限り、ほとんどの家具を持ち込みにして、自宅に近い環境にしている。	自宅からいすなどの家具を持ってきており、それぞれが居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	死角になるようなところには、音のなるものを設置したり、常にスタッフが気づけるようにしている。		

【評価機関】